

第2回 遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会

4. 連携・協働する取組について

令和 元年 7月 24日

連携・協働する取組

(1) 生態系ネットワークに関する取組内容【11の取組み】

●「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成のための取組方針」(平成30年8月)において、各機関は、それぞれ又は連携して以下の取組を実施していくこととしている。

主な取組内容	取組機関
<p>○河口域干潟の保全・再生[No.1]</p> <p>□河口域干潟の保全、砂州の侵食を抑制するための対策を実施する。</p>	遠賀川河川事務所
<p>○河川の縦断的連続性の保全・再生[No.2]</p> <p>□堰・床固等は、施設管理者と河川管理者が連携して、置石等による落差の改善や魚道の改良・新設を実施する。</p>	遠賀川河川事務所 福岡県(河川) 市町村
<p>○河川とその周辺の横断的連続性の再生[No.3]</p> <p>□主要な樋門やその周辺施設について、改修の計画がある場合は、可能な限り段差を設けないよう対策を講じる。</p>	遠賀川河川事務所 福岡県(河川・農山) 市町村
<p>○河川における湿地環境の保全・再生(多自然川づくり)[No.4]</p> <p>□河川において、瀬・淵、砂州の保全・再生、ヨシ原、河道内の氾濫原等の保全・再生に取り組む。</p>	遠賀川河川事務所 福岡県(河川)
<p>○外来生物の駆除等[No.5]</p> <p>□絶滅危惧種等の貴重な生物の生息・生育環境を保全し、工事を実施する場合には必要な対策を講じる。</p> <p>□外来生物のオオクチバスやブルーギル等、外来植物のセイバンモロコシやオオキンケイギク等については、関係者が連携して駆除に努める。</p> <p>□外来生物の問題について理解を深めるために環境学習等により啓発を図る。</p> <p>□河川水辺の国勢調査等により、モニタリングを実施する。</p>	遠賀川河川事務所 九州地方環境事務所 福岡県(河川・農山・環境) 市町村

連携・協働する取組

(1) 生態系ネットワークに関する取組内容【11の取組み】

主な取組内容	取組機関
<p>○人の営みと自然が調和した農地環境の保全・再生[No.6]</p> <p>□減農薬や無農薬農法への移行、冬季湛水等により農地の生物多様性の向上に努める。</p> <p>□地元農産物への付加価値の付与を思索する。</p>	福岡県(農山) 市町村
<p>○人の営みと自然が調和した森林環境の保全・再生[No.7]</p> <p>□陸上昆虫類の生息場や鳥類の営巣環境を維持する。</p> <p>□雑木林や植林地の定期的な草刈り、除伐、間伐に努める。</p>	福岡県(農山) 市町村
<p>○里地・里山における水辺のネットワーク形成[No.8]</p> <p>□樋門等に接続する水路の段差改善や水田魚道の設置等を実施する。</p> <p>□木型鳥類等が休憩・採餌する場所を保全するため、良好な池・沼の保全・再生に努める。</p>	遠賀川河川事務所 九州地方環境事務所 福岡県(河川・環境) 市町村
<p>○流域の環境を守る人材の育成[No.9]</p> <p>□清掃活動、自然体験活動、環境学習、自然観察会等の活動を担うリーダー等の人材育成、それを支えるレンジャー制度の導入等に取り組む。</p> <p>□SNS等の情報共有ツールを活用した広報に努める。</p>	遠賀川河川事務所 九州地方環境事務所 福岡県(河川・農山・環境) 市町村
<p>○豊かな自然と歴史・文化的資源を活かした地域振興[No.10]</p> <p>□バードウォッチングやエコツーリズム等の体験型観光の振興を図る。</p> <p>□歴史・文化的資源と有機的に結びついた観光を流域一体で振興し、交流人口の増加や雇用の確保、定住化につなげる。</p>	遠賀川河川事務所 九州地方環境事務所 福岡県(河川・農山・環境) 市町村
<p>○流域における多様な主体の連携[No.11]</p> <p>□地域住民、住民団体、企業、学校、行政等の多様な主体の連携・協働体制を構築するため、遠賀川流域リーダーサミット等の既存の仕組みの活用や新たな仕組みづくりに努める。</p>	遠賀川河川事務所 九州地方環境事務所 福岡県(河川・農山・環境) 市町村

連携・協働する取組

(2) 生態系ネットワークに関する取組内容【重点項目3つ】

- 流域全体で連携・協働する取組として、当面、以下の3項目を重点項目として重点的に実施する。

項目	内容
生態系に関する情報共有[No.12]	流域内においてポテンシャルの高いホットスポットの抽出を行い、生態系情報図を作成し情報共有を図る。
生態系に関する情報発信[No.13]	構成機関で連携を図りながら、ホームページや広報誌による情報発信を実施する。
生態系に関する普及啓発活動[No.14]	小中学校の環境学習や各種イベント等による地域住民への普及啓発活動を実施する。

連携・協働する取組

(3) 連携・協働の取組

【基本方針】

○他の取組との組合わせ

・取組方針にある**11の取組み**、**重点項目3つ**の取組みを**組合わせて**相乗効果を得る。

※新規(0⇒1)ではなく、既に取り組んでいる生態系に関する取組を組み合わせる。

【連携・協働の取組の展開】

1. **流域全体**で連携・協働できる取組(**重点項目**)を実施する。

(1) 生態系情報図の作成・共有

・生態系情報図により隣接する箇所で連携・協働できるコアエリア、取組を探す。

(2) HP等による相互情報発信

・各機関のHPに遠賀川流域生態系ネットワークのバナーを設置、相互リンクする。

・遠賀川流域住民みずからSNS等で情報発信してもらう。

(3) イベント等による普及啓発活動

・環境学習や各種イベント等により生態系に関する普及啓発活動を広げていく。

2. **できること(個別の取組)**から始める。

・遠賀川一斉清掃と併せた外来生物駆除の取組など既に取り組んでいる取組みを継続する。

・清掃活動は全ての環境の土台の改善となり住民・住民団体・企業と連携・協働しやすい取組である。

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組 (生態系情報図による連携できそうな取組探し)

現状の取組

■事例: エコロジカルネットワーク再生事業(小竹地区)



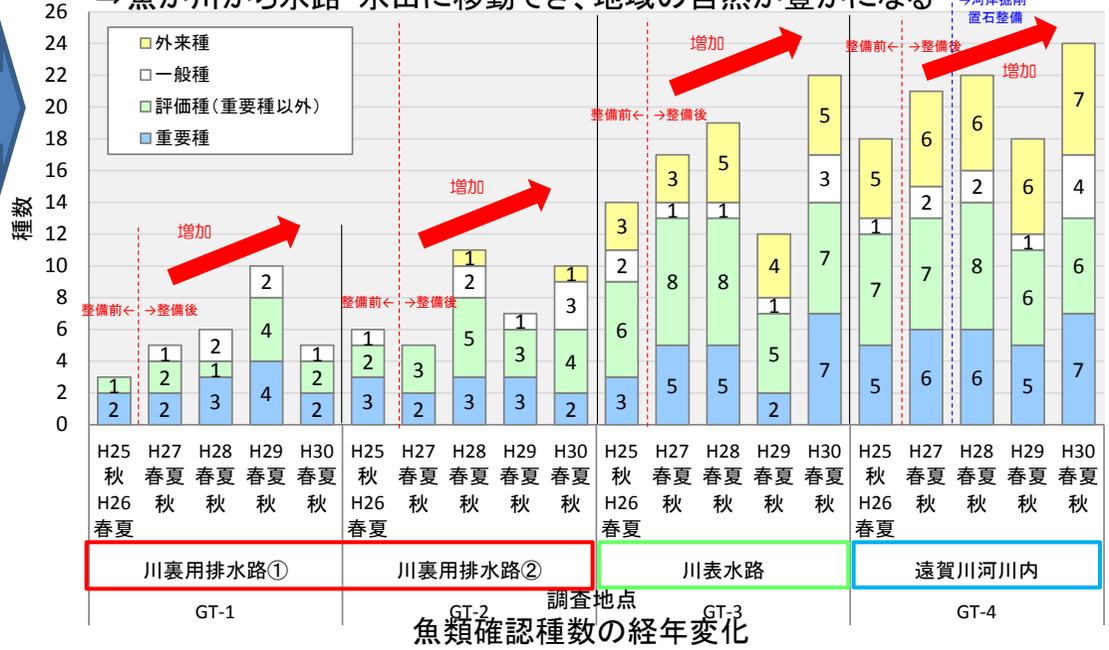
川表水路の整備
(多自然魚道)



川裏水路の整備
(水田魚道の設置)



⇒魚が川から水路・水田に移動でき、地域の自然が豊かになる



地域住民と協働の清掃・草刈り
⇒地域の活動拠点となる



小学校の環境学習の場
⇒自然環境をテーマにした学習の場になる

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（生態系情報図による連携できそうな取組探し）

■取組例②：中間地区

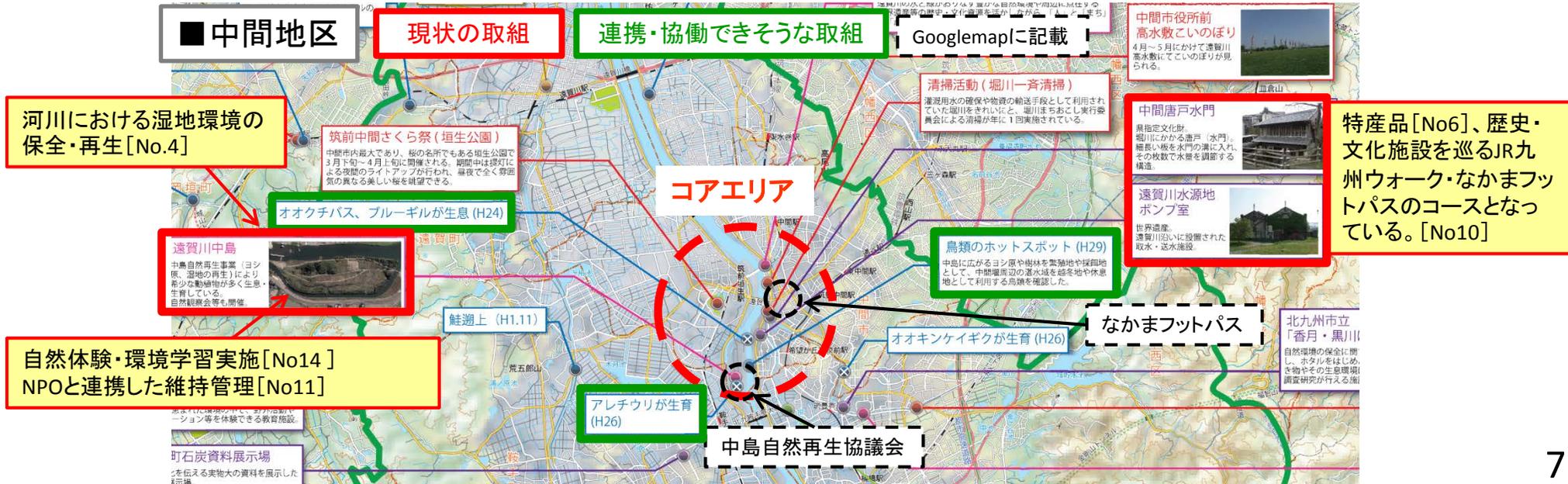
- ・中間地区では、中島自然再生事業により魚類、植物、鳥類等が増加、利活用・維持管理面で連携・協働の体制が構築されている。今後、バードウォッチング、外来生物駆除の連携の取組みが期待される。

<現状の取組>

- ・中島自然再生事業によりヨシ原、湿地環境が再生[No.4]され魚類、植物、鳥類等が増加している。
- ・利活用は地域住民、NPO等により自然体験、環境学習の場[No.14]となっており、維持管理は清掃活動・草刈り[No.11]でNPO等と連携・協働体制が構築されている。
- ・特産品[No6]、歴史・文化施設を巡るJR九州ウォーク・なかもつパスのコースとなっている。[No10]

<コアエリア内での連携・協働できそうな取組、期待される効果>

- ・鳥類の良好なホットスポットがあり、バードウォッチング、エコツーリズム等の体験型観光の振興が図れる。
- ・環境学習とあわせたオオクチバス等の外来生物駆除で効率的・効果的な連携の取組みが期待される。



連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組 (生態系情報図による連携できそうな取組探し)

現状の取組

■ 歴史・食を巡るツアー (2018.11.17)

第一観光で行く 遠賀川物語2018 (共通) 県内で遠賀川流域の特産品などが当たるお楽しみ抽選会を実施

古代を探求する
霊峰英彦山と古代神話をたどる旅
曾良は中に入れない「英彦山神宮寺階段」を特別見学
年一度の「國摩焚き神事の見学」

食と歴史を体験する
知られざる米に込められた遠賀川流域の恵みとたどる旅
一度は体験したい川上野原の作物体験 (お米) うれしいお土産付
遠賀川流域市町村の特産品
お米だんご (150g) 2個入
お米お餅 (100g) 1個入
お米もち (100g) 1個入
お米もち (100g) 1個入

45名様 限定募集
30名様 限定募集
5,980円 (税込)
お米の飲み比べもお楽しみ!
お米の飲み比べもお楽しみ!
お米の飲み比べもお楽しみ!

11月3日 (土) 11月17日 (土)
出発地: スロープカー - 上土産地中心

遠賀川流域の遺産や歴史、食文化、自然などのテーマごとに、圏域をまたぐ地域資源を結んだルートを整備し、その魅力を発信する「遠賀川活用プロジェクト」に共同で取り組んでいる。遠賀川中流域において「米」をテーマにバスツアーを実施している。

■ なかまフットパス (中間市)

なかまフットパス Enjoy Rambling

ありのままの中間を歩こう。
見つけて感じて気ままに楽しむ「フットパス」

フットパスって何？
フットパスとは、イギリスを発祥とする。"森林や河川地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと。[foot] ができる小径 [path] のこと。歩くことで見えてくる地域ならではの風景や地元の方との繋がりが感じられ、フットパスの例よりの楽しみ方です。

中間市世界遺産推進室観光政策係
中間市地域交流センター内
福岡県中間市大字新平660番地1
TEL: 093-249-4655
FAX: 093-244-1112

森林や田園地帯、古い街並など地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くルートを設定している。「上底井野コース」、「土手ノ内コース」、「まちなかコース」、「中底井野コース」、「天満宮コース」、「中間通谷コース」、「岩瀬長津コース」がある。

■ JR九州ウォーキング (2018.4.28)



JR九州では、九州内の自然、歴史、文化、特産品、イベントを巡るウォーキングイベントを開催している

■ 中島観察会 (2019.1.25)



中間市中島では自然再生事業によりヨシ原が再生されており、植物観察、野鳥観察会がNPO等との協働により開催されている。

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（生態系情報図による連携できそうな取組探し）

■取組例③：遠賀川中流～上流（直方市、飯塚市周辺）

- ・遠賀川中流～上流では、カヌー・自転車利用が盛んで自然体験・学習イベント等も開催されている。
- ・今後、バードウォッチング、外来生物駆除の連携の取組みが期待される。

<現状の取組>

- ・遠賀川中流～上流では自然・歴史・文化資源[No10]を自転車、カヌーで巡っている。
- ・利活用は行政・住民団体等の多様な主体[No11]により環境学習も含めたカヌー体験イベントを実施している。[No.14]
- ・遠賀川沿いの自転車道コースをHPで情報発信している。[No13]

<コアエリア内での連携・協働できそうな取組、期待される効果>

- ・鳥類の良好なホットスポットがあり、バードウォッチング、エコツーリズム等の観光の振興が図れる。
- ・環境学習とあわせた外来生物駆除で効率的・効果的な連携の取組みが期待される。



連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（生態系情報図による連携できそうな取組探し）

現状の取組

■カヌー体験教室（飯塚市）

カヌーを楽しみながら、遠賀川の上からの街の風景、川の中の様子、川の匂い、水の触り心地、五感で遠賀川を感じるイベントである。

■飯塚直方自転車道マップ（直方県土整備事務所）



遠賀川河川敷を通り、飯塚市～小竹町～直方市間を結び、サイクリング・散歩・ジョギング等、多くの人に利用され、筑豊の四季折々の風景が楽しめる。

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（できることから始める）

■取組例④：遠賀川一斉清掃＋行政・住民・企業参加＋外来生物勉強会＋広報＋駆除

- ・外来生物の駆除は、企業・住民・行政と連携して外来生物の勉強・広報・駆除を一斉清掃と組み合わせることで、効率的・効果的な取組みとなることが期待される。

＜現状の取組＞

- ・遠賀川一斉清掃は、行政・住民・企業等多様な主体が連携して実施している。[No.11]
- ・地域住民、実務者ともに外来生物に関する知識が不足しているため勉強会を開催している。[No.9]
- ・外来生物に関するチラシ等をHPで公表[No.13]するとともに、環境学習等で注意喚起を行っている。[No.14]
- ・外来生物の駆除[No.5]は個別対応となっている。

＜連携・協働できそうな取組、期待される効果＞

- ・上記取組を組み合わせることの相乗効果で効率的・効果的な取組みとなることが期待される。



遠賀川一斉清掃



外来生物勉強会



外来生物広報



外来生物駆除

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（できることから始める）

■取組例⑤：河川の縦断的連続性の再生+湿地環境再生+地域連携+普及啓発活動

- ・河川の縦断的連続性の再生（魚道）は湿地環境再生とのあわせることでより魚が増加する。地域住民と連携したイベント・環境学習と組み合わせることで効率的・効果的な取組みとなることが期待される。

<現状の取組>

- ・魚道整備により河川の縦断連続性[No.2]・湿地環境が保全・再生[No.4]され、魚類等が下流から上流に移動できるようになり魚類等が増加し生態系が豊かになる。
- ・地域住民等と連携[No.11]した環境学習等のイベント利活用[No.14]・維持管理（清掃・草刈り）している。

<連携・協働できそうな取組、期待される効果>

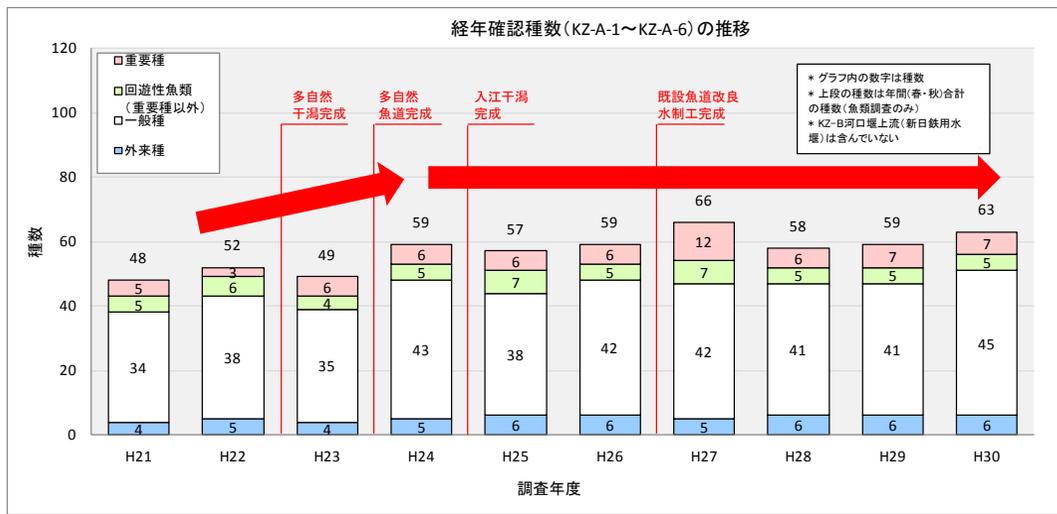
- ・上記取組を組み合わせることの相乗効果で効率的・効果的な取組みとなることが期待される。



遠賀川河口堰多自然魚道



多自然魚道 環境学習



遠賀川河口堰多自然魚道周辺の魚類種数経年変化
多自然干潟・魚道の整備に伴い回遊性魚類が増加し魚道を行き来を確認



回遊性魚類
ニホンウナギ

連携・協働する取組

(4) 連携・協働の取組（できることから始める）

■取組例⑥：人材・機材のネットワーク

- ・人材・機材をやりくりしてPR活動、普及啓発を効果的・効率的に行うことが期待できる。

<現状の取組>

- ・環境学習できる講師[No.9]・人材・機材が限られている。
- ・同じようなイベント[No.14]が個々に行われており、個別の情報発信となっており[No.13]、開催時期が集中する場合がある。
- ・多様な主体と連携[No.11]した合同イベントは少ない。

<連携・協働できそうな取組、期待される効果>

- ・講師・人材・機材・イベント日程の融通(場合によっては合同)によりイベントの効率的な準備、運営が期待できる。



出前講座



環境学習



カヌー体験

(5) 生態系情報図 (パンフレット版)の公開

- パンフレット版は、一般公開用として、Google map版(ビックデータベース)の中から生態系に関する生物、イベント等のホットスポット情報で取組方針にある11の取組み、重点項目3つの取組みに関して連携・協働できるような情報を抽出したもので作業部会にて確認を行い作成。
ホームページでの一般公開を予定。
 ⇒HP等で一般公開することで広範囲に周知する。
 ⇒流域のホットスポットに観光等で訪れ、情報発信(SNS等)してもらい、魅力、愛着を感じてもらおう。
 ⇒行政、住民団体等の連携・協働できる取組み探しのツールとして活用できる。
 ※情報の修正等あれば適宜更新していく予定。

■生態系情報図(パンフレット版)



■情報の区分(レイヤ構成)

項目	内容
生物	希少な動植物、動植物のホットスポット(近年増加・減少傾向)。良好な生態系のシンボル拠点となる
特定外来生物	生態系に大きな悪影響を及ぼすため駆除等の取組拠点となりえる
イベント	清掃活動や環境学習等のイベントで地域住民へのアピール拠点として期待できる
活動団体	人のネットワーク、交流人口の増加や人手不足解消が期待できる
特産品	ブランド農産物、お酒等の特産品による地域活性化が期待できる
地名	鴻巣、鶴等の動植物の名前がある地名は、昔は生息していた根拠となり愛着を持った拠点となりえる
整備箇所	環境整備箇所(予定含む)は、動植物の生息場所となると同時に、水辺と陸域をつなぐネットワーク拠点となりえる